

米国の大都市圏からみた プロスポーツチーム本拠地の立地分析 —NFL を中心に MLB と比較して—

松田 隆典*

摘要

本稿の目的は MLB のチームと対比して、NFL のチームが立地するための大都市圏を基準にした市場空間規模（成立閾人口）について考察することである。先行研究で明らかにされた MLB の立地過程に加えて、観客動員数の変動から MLB のチームの成立閾人口の変化について考察した。NFL のチームの立地過程を検討することによって収益分配制度の効果を明らかにした。収益分配制度はチームの経営を安定させるとともに、チームの立地競争を避けるために市場空間規模を大きくしない。また、スタジアムの共用の過程について分析して、NFL と MLB の2つのプロスポーツリーグのチームの集積効果を明らかにした。NFL のチームは当初は先行する MLB の球場などを借用するが、1960年代から多目的スタジアムの建設が始まり、やがて1990年から互いに専用スタジアムの建設が一般的になっていく。

キーワード：大都市圏，成立閾人口，立地過程，ナショナルフットボールリーグ，収益分配制度，スタジアムの共用，米国

I はじめに

本稿は米国におけるプロスポーツチームのうちメジャーリーグベースボール（MLB）とナショナルフットボールリーグ（NFL）のチームの立地条件について検討する。立地条件といっても、第1の視点はプロスポーツチームの市場空間である。ファンの市場空間は無限に広がるが、便宜上チームが立地する大都市圏という空間で把握することになる。都市圏人口を基準にして、プロスポーツチームの成立閾はどれくらいかという問題を設定した。

いったん形成された市場空間は相対的に少く不利な市場空間になっても、根強いファンの市場という歴史的慣性が作用する。それゆえにプロスポーツの立地過程について考察せねばならない。野球については、杉本（1990:34-56）が2大リーグ創立以前から1980年代まで、宇佐見（2001:92-131）は1950年代から20世紀末までの立地過程について、詳細に検討している。本稿は21世紀以降の動向について付け加えて、現在までの立地動向を概観する。

もう1つの研究対象であるプロフットボールチームの立地過程については、少なくともわが国

*滋賀大学教育学部 E-mail: matsuda@edu.shiga-u.ac.jp

ではあまり知られていないこともあって、旧 NFL の創設から現在までの立地過程について記述し、野球との比較においてその特徴を明らかにする。資料は NFL のホームページの「歴史」のページなどを参照した。

第2の立地因子として、野球とアメリカンフットボールのプロチーム間のスタジアムの共用について分析する。春-秋シーズンの野球と秋-春シーズンのアメリカンフットボールはスタジアムを共用しやすい試合開催シーズンであるため、スタジアムの共用による立地の集積効果が想定される。ファンの市場空間規模による共通の要因（偶然集積）ではなく、スタジアムの共用はチームの立地に必要な初期投資を節約する効果があるかもしれない。資料は NFL 及び MLB の各チームのホームページなどを参照したが、紙幅の関係で個々の記述の元になる 62 チーム以上に及ぶアドレスは省略した。

スタジアムの共用についても、杉本（1992:84-167）は 1990 年時点におけるスタジアムの共用について考察しているが、かつて共用していたが、すでに共用しなくなったスタジアムの例をあげていない。宇佐見（2001:180-227）も野球場の転用からドームスタジアムなどの兼用スタジアムへ、さらに 1990 年代の新古典派主義の専用球場という潮流について考察しているが、NFL の創成期からの共用について扱っていない。本稿は後発の NFL の側から網羅的にスタジアムの共用について分析する。

II 都市圏の定義

2000 年 12 月に米国行政管理予算局（OMB）は国勢調査局によるセンサスデータに基づいて統一的に都市圏を再定義し、2009 年に修正されている。中心都市人口 5 万人超の大都市統計地域（metropolitan statistical area, MSA）に小都市統計地域を加えて、合同統計地域（combined statistical area, CSA）として再編成された。CSA や MSA の基準地域は郡（county）であり、市町村を基準とする日本の都市圏より大雑把である。以下の人口データの記述は国勢調査局によるセンサスによる。

第1表には米国の主要な CSA の 2010 年の人口規模による順位と主要な中心都市を示している。都市圏の中心都市は基本的に 1 つだけの場合は少なく、中心都市は複数存在する。例えば、ニューヨークとニュージャージー州のニューアークが中心都市である都市圏を、便宜上ニューヨーク大都市圏と表記している。同様に、ロサンゼルスとロングビーチの都市圏をロサンゼルス大都市圏と称している。もっとも、これらの大都市圏は第2位の中心都市との人口格差は明らかである。

ワシントン DC とボルティモアの CSA は元々 2 つの MSA などが接続したものである。1970 年の都市圏は別々に扱うほうがよいかもしれないが、便宜上統合大都市圏とみなす。CSA ではなく、MSA を単位で示すならば、都市圏人口約 564 万人のワシントン DC の MSA と約 271 万人のボルティモアの MSA などに分かれる。サンフランシスコを代表的な中心都市として挙げて

第1表 MLB チームの立地変動と米国の大都市圏

区分	MLB チーム ★：アメリカンリーグ	創設地の都市圏 () は中心市以外	加盟	区分	移転地の都市圏 () は中心市以外	移転	地区 1992-93	都市圏人口(千人) 1970年	2010年	増加率 '70-'10
I	カブス	シカゴ	1876				東→中	7,959	9,841	23.6
	ブレーブス	ボストン	1876	III	ミルウォーキー	1953	西→東	1,775	5,910	233.0
	レッズ	シンシナティ	1876			2017	西→中	1,670	2,174	30.2
	ドジャーズ	ニューヨーク	1883	III	ロサンゼルス	1958	西	10,015	17,877	78.5
	ジャイアンツ	ニューヨーク	1883	III	サンフランシスコ	1958	西	4,768	8,154	71.0
	フィリーズ	フィラデルフィア	1883				東	5,690	7,068	24.2
	パイレーツ	ピッツバーグ	1887				東→中	2,684	2,661	-0.9
	カーディナルス	セントルイス	1892				東→中	2,455	2,892	17.8
II	ヤンキース★	ボルティモア	1901	II	ニューヨーク	1903	東	19,452	23,077	18.6
	ホワイソックス★	シカゴ	1901				西→中	7,959	9,841	23.6
	オリオールズ★	セントルイス	1901	III	ボルチモア	1954	東	5,419	9,052	67.0
	アスレチックス★	フィラデルフィア	1901	III	カンザスシティ	1955				
				IV	サンフランシスコ (オークランド)	1968	西	4,768	8,154	71.0
	レッドソックス★	ボストン	1901				東	5,236	7,893	50.7
	タイガース★	デトロイト	1901				東→中	5,322	5,319	-0.1
ツインズ★	ワシントン DC	1901	III	ミネアポリス	1961	西→中	2,031	3,685	81.4	
インディアンズ★	クリーヴランド	1901				東→中	3,097	3,516	13.5	
III	エンゼルス★	ロサンゼルス	1961	IV	(アナハイム)	1981	西	10,015	17,877	78.5
	レンジャーズ★	ワシントン DC	1961	IV	ダラス(アーリントン)	1972	西	2,442	6,817	179.2
	メッツ	ニューヨーク	1962				東	19,452	23,077	18.6
	アストロズ	ヒューストン	1962				西→中	2,197	6,115	178.3
IV	ナショナルズ	モンリオール	1969	V	ワシントン DC	2004	東	5,419	9,052	67.0
	ロイヤルズ★	カンザスシティ	1969				西→中	1,388	2,343	68.8
	パドレス	サンディエゴ	1969				西	1,365	3,095	126.7
	ブルワーズ	シアトル	1969	IV	ミルウォーキー	1970	東→中	1,575	2,026	28.6
	マリナーズ★	シアトル	1977				西	2,043	4,275	109.3
	ブルーージェイズ★	トロント	1977				東	2,628	5,113	94.6
V	マーリンズ	マイアミ	1993				東	1,909	6,167	223.0
	ロッキーズ	デンヴァー	1993				西	1,339	3,091	130.8
	ダイヤモンドバックス	フェニックス	1998				西	1,052	4,193	298.6
	デビルレイズ★	タンパ (セントピーターズバーグ)	1998				東	1,120	2,783	148.5
未加盟の都市圏		ポートランド						1,269	2,921	130.2
		オーランド						530	2,818	431.7
		サクラメント						853	2,415	183.1
		シャーロット						844	2,376	181.5
		コロンバス						1,130	2,308	104.2
		ソルトレイクシティ						689	2,272	229.8
		インディアナポリス						1,252	2,267	81.1
	ラスヴェガス						273	2,195	704.0	
	サンアントニオ						908	2,142	135.9	

資料：メジャーリーグベースボール公式サイト (MLB.com)、アメリカ合衆国センサスなど

注1) I：クラシックエイト、II：アメリカンリーグ発足、III：第1期拡張、IV：2地区制、V：3地区制

注2) 現存するチームのみ列挙、チーム名は現在の名称

注3) 1970年の人口は Consolidated Metropolitan Statistical Area (CMSA)、2010年は Combined Statistical Area (CSA)

注4) 1998年ブルワーズがアメリカンリーグから移籍、2013年アストロズがナショナルリーグから移籍

注5) トロント大都市圏の人口は1971年と2006年

いる CSA も同様であるが、最大人口の中心都市はシリコンヴァレーのサンノゼであり、サンフランシスコベイエリアと称される。サンフランシスコベイエリアは約 434 万人のサンフランシスコの MSA と約 187 万人のシリコンヴァレーのサンノゼの MSA などに分かれる。以下では第 1 表に示した大都市圏名は、サンフランシスコベイエリアをのぞいて、最大の中心都市の名を冠して「○○大都市圏」と呼ぶこととする。

表 1 に 1970 年と 2010 年の都市圏人口及び 40 年間の人口増加率が付されている。1970 年と 2010 年のそれぞれの時点での大都市圏の実態を示すことを目的としたため、両年度で大都市圏の範囲が異なる点に留意しなければならない。時期によって都市圏の範囲が異なるという点は、都市圏における郊外の成長を意味している。

1970 年の都市圏は 2010 年時点での CSA に属する単一の MSA または複数の MSA の統合大都市統計地域 (consolidated metropolitan statistical area, CMSA) であり、周辺の小都市統計地域を含んでいない。したがって、第 1 表の大都市圏の人口増加率は小都市圏を含む分だけ過大評価されている可能性があるが、1970 年の CMSA と 2010 年の CSA とをあえて別々の基準としたのは、できるだけ実態に近い市場空間を想定するためである。

1970 年代以降、メガロポリスから五大湖沿岸にかけての既存の産業集積地のフロストベルトから、概ね北緯 37 度線以南のサンベルトにおける人口増加が顕著になったことは周知のとおりである。米国の総人口は 1970 年に 2 億人を超え、2010 年に 3 億人を超えた。1970～2010 年の 40 年間の人口増加率はアメリカ合衆国全体で約 52% である。増加率 52% を上回った大都市圏はすべてサンベルトに位置する。逆に 52% を下回った大都市圏のほとんどはフロストベルトに位置する。

Ⅲ MLB チーム本拠地の成立閾

1. 現状の都市圏人口からの成立閾の推定

2010 年時点でのメジャーリーグベースボール (MLB) のチームは、カナダのトロントをのぞくと、アメリカ合衆国に 29 チームがある。表 1 に挙げた人口 300～800 万人の大都市圏には必ずいずれかのリーグの 1 チームが本拠地を置き、200～300 万人の 15 の都市圏にも 6 つの MLB のチームが本拠地を置いている。人口が 800 万人以上の大都市圏にはナショナルリーグとアメリカンリーグに各 1 チームが本拠地を置いている。理論的には 400 万人を上限として、2 つ目のチームが本拠地を置く可能性があるが、800 万人未満だと 2 つ目のチームを置くことを躊躇するようにみえる。

200 万人程度のシンシナティやミルウォーキーの大都市圏でもチーム本拠地が置かれているから、約 200 万人という都市圏人口が MLB の成立閾 (threshold population) = 市場空間規模の下限であるという仮説を立てることができる。ところで、200～300 万人の都市圏のうち、MLB のチーム本拠地が置かれたものとそうでないものとの違いは何だろうか。

チームの本拠地が置かれた都市圏はセントルイス・ピッツバーグ・シンシナティ・ミルウォーキー・カンザスシティと、タンパをのぞいて中西部の都市圏であることが知られる。つまり近年あまり人口増加をしていない都市圏である。一方、チームが置かれていない都市圏はコロンバスとインディアナポリスを除いて、フロストベルト以外に位置する都市圏である。5つのうち3つは19世紀末に、2つは1969年と1970年に加盟したチームである。チームの加盟・移転とその時期の都市圏人口を検討する必要がある。

第1表には主としてチームの加盟・移転の時期によってⅠ～Ⅴに分類した。Ⅰ～Ⅲ類に分類した1968年までに加盟・移転した20チームは1970年の都市圏人口順位で18位の約170万人のシンシナティ都市圏より大きい都市圏に立地し、立地していないのは約240万人のダラス都市圏（12位）と約190万人のマイアミ都市圏（16位）だけである。このことはMLBの南部への進出の遅れに関係しており、プロフットボールチームの立地過程との比較で明らかにする。1969年における約170万人という成立閾は2010年の約200万人より説得力があると思われるが、2010年に200～300万人の都市圏にMLBチームが立地しない理由が問題となる。

以上の市場分析は定量的な推定値であり、市場空間の質つまり野球に対するファンの密度を無視している。例えば、第1表中のⅣ類に見られるシアトルより都市圏人口の小さいミルウォーキーへの移転の事例のように、一般に中西部の大都市圏は野球熱が高いといわれる。杉本（1990：120-125）や宇佐見（2001：92-97）も野球熱の高い都市の例としてミルウォーキーをあげている。ミルウォーキー都市圏は当時すでに人口増加が望めないにもかかわらず、ブレーブスが撤退した4年後の1970年には新チームのブルワーズを迎えている。一方、シアトルのパイロッツは急増する都市圏人口にもかかわらず、入場者数の不振などから1年だけで撤退したが、NFLのシーホークスと共用することを前提にして市がキングドームを建設して、マリナーズのチーム拡張が決まった。

ESPNのデータベースからMLB観客動員数のうち2010年の1試合平均（ホームの試合のみ）を例にとろう。4万人以上のチームは、メガロポリスのヤンキースとフィリーズ、ロサンゼルス大都市圏のドジャーズとエンゼルスと、都市圏人口300万人に満たないが、1960年代までワールドシリーズ優勝8回を誇るセントルイスカーディナルス（4位）である。そのほか、人口400万人未満の大都市圏のチームが平均30,064人を超えたのは、中西部のミネアポリスのツインズ（6位）、前述のミルウォーキーのブルワーズ（11位）と、デンヴァーのロッキーズ（10位）だけである。

逆に、人口400万人以上の大都市圏でMLBの観客動員数の平均を下回ったのは、シカゴホワイトソックス、ワシントンナショナルズ、ボルティモアオリオールズ、オークランドアスレチックスという800～1,000万人の大都市圏に本拠地を置く2チームのうちの片方または両方である。ホワイトソックスとアスレチックスは大都市圏のもう1つのチームであるシカゴカブスとサンフランシスコジャイアンツの人気に押されているが、ワシントンDCとボルティモアの広域大都市圏の2チームの観客動員数の合計は、ヤンキースやドジャーズ1チームだけの観客動員数を下

回っている。

2. 観客動員数の変動からみた成立閾の変化

ところで、都市人口ではなく大都市圏人口をもってチームの成立閾を推定することの妥当性はあるだろうか。鈴木（1978：185）によると、1876年のナショナルリーグ設立時の憲章には都市人口（75,000人以上）と都市間の距離（5マイル）という条項はあるが、都市圏人口という発想はない。

第2表に示したMLBの観客動員数の変化から考察してみたい。米国の総人口は1900年に7,500万人を超え、1920年に1億人を超え、1950年に1億5千万人を超えるので、20世紀前半にプロ野球は国民的娯楽になっていく過程を示している。大恐慌の影響による1935年の観客動員数の減少（鈴木1971：109-111）を挟んで、とりわけ第2次大戦後の1試合あたりの観客動員数の飛躍的な増加はモータリゼーションの普遍化による郊外を含む都市圏全体の市場空間を想定しなければ説明できないと考えられる。米国の最初の都市圏は1947年に公式に定義され、少なくともこの時期から都市圏による生活空間の実態把握が必要とされ、それ以前から都市圏というリアリティは存在したと思われる¹⁾。

一方、1950年の総人口約1億5千万人から1970年の約2億人に増加したことを考慮すると、西海岸や南部などの新しい市場空間の拡大にもかかわらず、1試合当たりの両リーグの観客動員数の平均が1950年の14,198人から1970年の14,795人へ伸び悩んでいる²⁾ことは、TV中継の開

第2表 1901-70年におけるMLB観戦者数の変化

年	ナショナルリーグ 観戦者数(千人)	球団数	試合 総数	1試合平均 観戦者数(人)	アメリカンリーグ 観戦者数(千人)	球団数	試合 総数	1試合平均 観戦者数(人)
1901	1,920	8	554	3,466	1,684	8	542	3,107
1905	2,734	8	612	4,467	3,121	8	682	4,576
1910	3,495	8	614	5,692	3,271	8	609	5,371
1915	2,430	8	611	3,977	2,435	8	611	3,985
1920	4,037	8	614	6,575	5,084	8	614	8,280
1925	4,354	8	614	7,091	5,187	8	612	8,475
1930	5,447	8	616	8,843	4,686	8	616	7,607
1935	3,657	8	613	5,966	3,688	8	616	5,987
1940	4,390	8	612	7,173	5,434	8	616	8,821
1945	5,261	8	614	8,568	5,580	8	604	9,238
1950	8,321	8	614	13,552	9,142	8	616	14,841
1955	7,674	8	615	12,478	8,943	8	616	14,518
1960	10,685	8	616	17,346	9,227	8	616	14,979
1965	13,581	10	809	16,787	8,861	10	810	10,940
1970	16,662	12	971	17,160	12,085	12	972	12,433

資料：合衆国商務省編『アメリカ歴史統計』第1巻、1986
The Baseball Encyclopedia, 10th edition, 1996

始の影響といわれる（池井 1977: 119-124）が、NFL や NBA など他のプロスポーツへの興味の拡散をも思わせる。逆に、2010 年に総人口が3億人を超えて1970年から1.5倍になったことを考慮すると、2010年に1試合当たりの観客動員数の平均が30,306人と1970年の2倍以上になったことは、1970年以降のヒスパニックの増加に対応する市場の拡大といえるかもしれない。

杉本（1992: 40-42）は1988年時点のMSAの人口とMLBチームの立地との関係を分析している。CMSAではないので、厳密に本稿と比較することはできないが、1990年代の第2のチーム拡張期以前の状況を考察することができる。全体的にはフロストベルトの都市圏人口の停滞にもかかわらずチームが残存することと、サンベルトの都市圏人口の増加に伴うチームの拡張を示している。

興味深い知見としては、1988年には急成長していたマイアミ都市圏をのぞいてはほぼ都市圏人口の上位26位までにすべてチームが設立されているが、2010年には最も都市圏人口が小さいミルウォーキー都市圏より大きい人口をもつ9都市圏が成長したにもかかわらず、ワシントンDCのナショナルズへの移転をのぞいて、移転やチーム拡張がなかった点である。20年間変化のないチーム構成は30チームというプレミアム効果を高めてきた。

2018年7月にMLB機構コミッショナーのロブ・マンフレッドは2チームの拡張を示唆した。ラスヴェガス・ポートランド・シャーロット・ナッシュヴィル・モンリオール・ヴァンクーヴァーを候補としてあげた。うちラスヴェガス・ポートランド・シャーロットは都市圏人口が急増して200万人を超え、モンリオールはかつてチームが立地していた。ナッシュヴィルは都市圏人口200万人に満たないが、空間的に競合しない位置にある。

IV NFL チーム本拠地の立地分析

1. NFL のチーム本拠地の成立閾は特定できるか

MLBのチーム本拠地の立地分析と比較するために、メジャースポーツであるアメリカンフットボールのプロリーグ（NFL）について検討してみたい。第3表はNFLのチームが本拠地を置く都市圏および各チームのリーグ加盟年（創設年ではない）を示している。都市圏人口約310万人のサンディエゴ都市圏（18位）まではすべて立地しているとはいえ、都市圏人口約120万人のバッファロー都市圏（50位）よりも市場規模が大きく、NFL本拠地が置かれていない都市圏が20もあることを考慮すると、NFLのチーム本拠地の成立閾を想定すること自体が妥当であるかが問題になる。

NFLが他のプロスポーツと異なるのは、リーグ統合前の1960年代後半から試合のテレビ放映権を管理したことである。他のプロリーグは各全国放送以外のローカル放送についてチームと放送局が別々に契約するため、チームによる収入格差が生じやすくなる。市場規模に左右されるのは観客動員数による入場料収入だけでなく、メディア空間の規模に左右される放映権料が立地条件を規定する。

第3表 NFL チームの立地変動と米国の大都市圏

区分	NFL チーム ★: AFC	創設地 () は中心市以外	加盟	MLB 球団	区分	移転地 () は中心市以外	移転	MLB 球団	地区 2001-02	都市圏人口(千人) 1970年	1980年	増加率 '70-'10
I	ベアーズ	シカゴ	1920	●					中→北	7,959	9,841	23.6
	カーディナルス	ラシーン (ウィスコンシン州)	1920	●	I	シカゴ	1922	●	中→北	7,959	9,841	23.6
					IV	セントルイス	1960	●	東	2,455	2,892	17.8
					V	(テンピ)	1988	○	東→西	1,052	4,193	298.6
					VI	(グレンデール)	2006					
	バッカーズ	グリーンベイ ミルウォーキー	1921 1933	× ○					中→北	203	305	50.2
										1,575	2,026	28.6
	ジャイアンツ	ニューヨーク	1925	●				東	19,452	23,077	18.6	
	ライオンズ	ポーツマス (オハイオ州)	1930	●	II	デトロイト	1934	●	中→北	5,322	5,319	-0.1
					V	(ボンティアック)	1975					
					VI	デトロイト	2002					
	レッドスキズ	ボストン	1932	●	II	ワシントン DC (ランドーバン)	1937 1997	●	東	5,419	9,052	67.0
II	イーグルス	フィラデルフィア	1933	●					東	5,690	7,068	24.2
	スティーラーズ★	ピッツバーグ	1933	●					中→北	2,684	2,661	-0.9
	ラムズ	クリーヴランド	1937	●	II	ロサンゼルス	1946	○	西	10,015	17,877	78.5
					V	(アナハイム)	1981	●				
					V	セントルイス	1995	●	西	2,455	2,892	17.8
	フォーティナイナーズ	サンフランシスコ	1950	○	VI	ロサンゼルス	2016	●	西	4,768	8,154	71.0
	ブラウンズ★	クリーヴランド	1950	●					中→北	3,097	3,516	13.5
	コルツ★	ボルティモア	1953	○	V	インディアナポリス	1984	×	中→南	1,252	2,267	81.1
III	ジェッツ★	ニューヨーク	1960	○	V	(イーストラザフォード)	1984		東	19,452	23,077	18.6
	ペイトリオッツ★	ボストン	1960	●	V	(フォックスボロ)	1971		東	5,236	7,893	50.7
	ビルズ★	バッファロー	1960	×	V	(オーチャードパーク)	1973		東	1,350	1,216	-9.9
	ブロンコス★	デンヴァー	1960	○					西	1,339	3,091	130.8
	レイダース★	(オークランド)	1960	○	V	ロサンゼルス	1982	○	西	10,015	17,877	78.5
					V	(オークランド)	1994			4,768	8,154	71.0
	チャージャーズ★	ロサンゼルス	1960	○	III	サンディエゴ	1962	○	西	1,365	3,095	126.7
					VI	ロサンゼルス	2017		西	10,015	17,877	78.5
	タイタンズ★	ヒューストン	1960	○	V	ナッシュビル	1999	×	中→南	701	1,788	155.1
	チーフス★	ダラス	1960	○	III	カンサスシティ	1963	○	西	1,388	2,343	68.8
ドルフィンズ★	マイアミ	1966	○					東	1,909	6,167	223.0	
ベンガルズ★	シンシナティ	1968	●					中→北	1,670	2,174	30.2	
IV	カウボーイズ	ダラス	1960	○	V	(アーヴィング)	1971		東	2,442	6,817	179.2
					VI	(アーリントン)	2009					
	バイキングス	(ブルーミントン)	1961	●					中→北	2,031	3,685	81.4
	ファルコンズ	アトランタ	1966	●					西→南	1,775	5,910	233.0
セインツ	ニューオーリンズ	1967	×					西→南	1,149	1,414	23.1	
V	シーホークス	シアトル	1976	●					西	2,043	4,275	109.3
	バッカニアーズ	タンパ	1976	○					中→南	1,120	2,783	148.5
	パンサーズ	シャーロット	1995	×					西→南	844	2,376	181.5
	ジャガーズ★	ジャクソンビル	1995	×					中→南	615	1,470	139.0
	レイブンズ★	(ボルティモア)	1996	●					中→北	5,419	9,052	67.0
VI	テキサス★	ヒューストン	2002	●					南	2,197	6,115	178.3

資料: NFL 公式サイト (NFL.com), アメリカ合衆国センサスなど

注1) I: 旧 NFL 草創, II: 旧 NFL 地区制, III: AFL 設立, IV: 旧 NFL 拡張, V: NFC・AFC 各3地区制, VI: 各4地区制

注2) 現存のチームのみ列挙, チーム名は現在

注3) 草創期のチームは他にオハイオ州カントン・アクロン・クリーヴランド・デイトン・コロンバス, インディアナ州マンシーなど

注4) 1970年スティーラーズ・ブラウンズ・コルツが旧 NFL から移籍, 2002年シーホークスが AFC から移籍

注5) 「MLB 球団」欄の●は NFL チーム加盟時に MLB チームが既設, ◎は同年, ○は NFL チームが先行, ×は MLB チームが未設

ところが、NFL には「試合開始 72 時間前に観戦チケットを完売していないと、スタジアムから 75 マイル（約 120 km）以内のエリアでは試合中継を放送しない」というブラックアウトルールが設けられている。これは「テレビ中継は遠征先での試合を観るための手段」という考え方に基づいている。チームのオーナーやスポンサーが地元の支持を失わないために、チケットを買い上げてもテレビ中継を放送することがある。

それでも、ESPN のデータベースによるホームでの試合の平均観客動員数にはチームによりかなり差がある。2010 年のデータでは最大のダラスカウボーイズの 87,047 人をはじめ、ワシントン DC、ニューヨークの 2 チーム、デンヴァー、シャーロット、ボルティモア、ヒューストン、グリーンベイ、ニューオーリンズの 10 チームが 7 万人を超える。一方、最小のオークランドの 46,431 人のほかタンパ、セントルイス、デトロイト、ミネアポリスの 5 チームが 6 万人未満である。

1 シーズンだけのデータであるが、MLB チームの人気が都市圏人口に左右される傾向があるのに対して、グリーンベイやニューオーリンズに代表されるように NFL チームは都市圏人口との相関が小さいように思われる。

リーグによる放映権管理を実現した背景には NFL の試合数の少なさがある。1 試合あたりの平均観客動員数が MLB の 2 倍以上であるとしても、レギュラーシーズンで週 1 回の 16 試合、プレシーズンやポストシーズンに進んだ場合も含めても試合数は MLB の 160 試合以上には遠く及ばない。NFL の収入における放映権料の比重は大きい。現在から少し前の契約であるが、NFL の年間総収入約 120 億ドルのうちテレビ放映権料が約 50 億ドルを占めるのに対して、MLB の年間総収入約 90 億ドルのうちテレビ放映権料は約 15 億ドルにすぎない³⁾。NFL のフランチャイズはメディア空間を通じて実現されているという点で現代的なのかもしれない。

つまり、ブラックアウトルールによって NFL のチームも都市圏の地域市場に支えられていたが、分配される放映権料の安定性のために MLB ほど市場空間の規模によって左右されなかったであろう。4 大プロスポーツチームの中で最小であるグリーンベイ都市圏に本拠地を維持し続けたのは、地元住民の強い支持と少し離れたミルウォーキー大都市圏の地域市場があるとはいえ、リーグからの放映権料の配分が可能にしたと考えられる。

2. NFL 統合までの過程

NFL は 1920 年に中西部のエリー湖岸とミシガン湖岸に近い都市群の各チームでアメリカン・プロフットボール・アソシエーション（APFA）が発足し、1922 年にナショナルフットボールリーグ（NFL）と改称した。当時シカゴの約 200 万人、クリーヴランドの約 80 万人という大都市をのぞけば、アクロン約 21 万人、デイトン約 15 万人、カントン（以上オハイオ州）約 9 万人、ハモンド約 4 万人、マンシー（以上インディアナ州）約 4 万人、ラシーン（ミルウォーキー郊外）約 6 万人であり、ローカルな組織だったことが知られる。

その後、現存のチームでは 1920～30 年代にグリーンベイ、ピッツバーグ、デトロイトだけで

なく、北東部のニューヨーク（ジャイアンツ、MLBのチームと同名）、フィラデルフィア、ワシントンDCのチームが加盟した。1933年には旧NFLは地区制に移行した。東西2地区制であり、ほぼ中西部と北東部に分かれた。

NFLのチームは中西部の中小都市のチームは淘汰されて、しだいにフロストベルトなどの大都市に本拠地を置くようになった。NFL最古のチームであるラシンのカージナルスも1923年にシカゴに移転した。ただし、1921年加盟のパッカーズだけは、現在もミルウォーキーから約180km（112マイル）北に位置する2010年でも人口約10万人（加盟当時32,000人程度と推定される）のグリーンベイに本拠地を置いている。4大プロスポーツチームの中で最も小さい本拠地である。1933年にはパッカーズもミルウォーキーに準本拠地を置いて、ダブルフランチャイズとなり、プロスポーツリーグとしてのNFLの成立条件として市場人口は重要な要因となったことが知られる。

中小都市の本拠地の淘汰はアメリカンフットボールがメジャースポーツになっていく過程に重なるが、もはや中小都市では支えきれなくなったのであろう。背景には大都市郊外の形成による市場の拡大があり、1930年代から北東部のメガロポリスからシカゴ以东の中西部で発達した都市間電気鉄道（Interurban）が廃止されつつあり、自動車交通が都市圏の形成原理となっていく。

第2次大戦後にモータリゼーションによる急速な郊外化がすすみ、MLBと同様にNFLも都市圏レベルの地域市場の影響を受けたと思われる。とくに自動車交通に依存する西海岸への移転はMLBのチームより早い。1946年にラムズがクリーヴランドからロサンゼルスに移転し、1950年にサンフランシスコのフォーティナイナーズが加盟してカリフォルニアの市場を確立した。一方、NFLの発祥地でもチームの補完や再建がすすんだ。ラムズ移転後のクリーヴランドに1950年にブラウンズが加盟した。1946年に創設されたボルティモアコルツが解散したが、1953年に再建されて加盟した。

1960年にNFLのライバルとしてアメリカンフットボールリーグ（AFL）が設立されたことが一大転機となった。ダラス、ヒューストン（のち移転）、ロサンゼルス（のち移転）、オークランドのサンベルトの4都市に加えて、ニューヨーク（ジェッツの前身）、ボストン、デンヴァーや中西部のパッファローにもフランチャイズを置いた。第3表はあえてこれら8チーム（のち加盟した2チームも）の加盟年をAFLに加盟した年次で示した。

AFLは当初ミネアポリスのチームを誘ったが、NFLがフランチャイズを与えて鞍替えさせた。NFLはAFLに対抗するため、1960年にAFLの発祥地であるダラスでカウボーイズにフランチャイズを与えた。1963年にAFLのダラステキサズは移転してカンザスシティチーフスとなった。NFLのロサンゼルスラムズとの競合を避けて、AFLのチャージャーズも1962年にサンディエゴに移転した。

1956年からCBSによりNFLのレギュラーシーズンの試合が放送されていたが、AFLは設立時の1960年からABCと放映権契約（1965年からはNBCと契約）を結び、各チームに放映権料を分配した。1962年にNFLもCBSと独占契約を結んで、放映権料を分配してチームの経営

が安定した。現在は各チームのチケット収入の40%、ライセンスグッズ収入、ナショナル及びグローバルスポンサーからの収入（ローカルスポンサー収入は各チームへ）も収益分配制度（revenue-sharing system）の対象となっている。

注目すべきは AFL が当時約 130 万人だったバッファロー都市圏や約 100 万人程度であったと思われるデンヴァー都市圏にも進出したことである。ダラスカウボーイズとの競争を避けて移転したカンザスシティ都市圏や、ロサンゼルスラムズとの競争を避けて移転したサンディエゴ都市圏も当時約 110 万人程度だったと推定される。1950 年代までの成立圏がクリーヴランド都市圏の約 150 万人と推定されることを考慮すると、放映権料分配の効果であるといえるかもしれない。

3. NFL 統合後のチーム拡張と移転

1966 年から両リーグの優勝チームによるワールドチャンピオンシップ（1968 年からスーパーボウルと改称）を実施し、両リーグの選手の争奪戦の弊害を防ぐために、1967 年からドラフトを統一した。1970 年に両リーグが対等合併の形で統合された。統合前の AFL の 10 チームと旧 NFL のうちのピッツバーグ・ボルティモア・クリーヴランドの 3 チームを加えて、アメリカンフットボールカンファレンス（AFC）が編成された。統合前の NFL の上記 3 チームをのぞく 1966 年以前に加盟した 13 チームでナショナルフットボールカンファレンス（NFC）が編成された。NFC と AFC はそれぞれ 3 地区で編成された。

リーグの統合後も CBS が旧 NFL の流れを汲む NFC の試合、NBC が AFL の流れを汲む AFC の試合のそれぞれの放映権を獲得した。NFC 所属チームと AFC 所属のチームが対戦するときはアウエーチームが属するカンファレンスの放映権を保有する局が担当した。もっとも、1960 年代は各チームに配分された放映権料の占める役割はまだ小さかった。テレビ収入がチケット収入を上回ったのは 1978 年であり、放映権料が高騰するのは 1990 年に当時新興の TNT⁴⁾が放映権獲得に乗り出し、1994 年に FOX が破格の契約金で NFC のレギュラーシーズンの放映権を獲得してから（大坪 2002: 173-176）である。

第 3 表は MLB と NFL のそれぞれのチームが都市圏内でどちらが先行して進出したかを示している。概ね 1950 年代までは MLB のチームが NFL のチームを先行するが、1960 年の AFL の設立以降は MLB のチームより先行する都市圏が多いことが知られる。AFL の設立はプロスポーツを全米の主要な都市圏に広げたといえる。

統合協議の過程においても、NFL は 1966 年に南部最大のアトランタ大都市圏、1967 年に約 100 万人のニューオーリンズ都市圏にチームを創設して 16 チームとなった。一方、AFL は 1966 年に約 110 万人のマイアミ都市圏、1968 年に約 130 万人のシンシナティ都市圏にチームを置いて 10 チームとなった。NFL と AFL は互いのテリトリーにチームを置くとともに、テキサス以外の南部への進出をすすめている。

NFL と AFL の合併に合意した 1966 年に旧 NFL は南部最大のアトランタ大都市圏へ進出した

が、これは MLB のアトランタへの進出と同じ年である。また、統合した NFL は 1976 年シアトルにシーホークスをフランチャイズとした。NFL のシアトルへの進出は MLB が 1969 年に進出して 1 年だけで撤退したものの、恒常的な進出は同時期である。前述のミネアポリスとアトランタ、シアトルの都市圏への進出は、後述するが兼用スタジアムの建設が前提であった。

一方、MLB は 1962 年のヒューストンアストロズに続いて、NFL の統合後に 1972 年に NFL の人気チームであったカウボーイズがあるダラス近郊のアーリントンにレンジャーズを置いた。MLB は NFL という外なるライバルとの競争を意識したのではないだろうか。MLB は南部への進出に関しては明らかに遅れた。

前述のマイアミドルフィンズに続いて、1976 年にタンパにバッカニアーズをフランチャイズとした。マイアミヤタンパへの進出は MLB より 20 年も早い。1995 年に人口増加の著しいフロリダ州ジャクソンヴィルと金融センターとして急成長するシャーロットにフランチャイズを拡大した。インディアナポリス・ジャクソンヴィル・シャーロットへの進出には MLB が追従できていない。

1984 年にコルツが中西部のインディアナポリスへ移転し、1996 年には空白となっていたボルティモアに新チームが創設された。ボルティモアでのチーム再建は 1953 年に続いて、2 度目である。インディアナポリス都市圏は中西部には珍しく堅調に都市圏人口が増加しているが、1970 年代は減少している。1980 年代の自動車産業外資の現地生産で 1980 年代に人口増加に転じたことを見逃さず、中西部のニッチ市場を目指したと考えられる。

最も不可思議な移転は 1995 年のロサンゼルスラムズのセントルイスへの移転である。セントルイスはオーナーのジョージア・フロンティアの出身地という理由である。全米第 2 の都市圏人口をもつロサンゼルスに NFL のチームがないという事態となった。しかもセントルイスは MLB の古豪カージナルスの本拠地である。1982 年にオークランドレイダースがロサンゼルスに移転したが、前年の 1994 年にオークランドに再移転していた。

1988 年に最古のチームであるカージナルスがシカゴから人口急増地域であるフェニックスの郊外テンピへ移転する。ここでも NFL は MLB のダイヤモンドバックスの進出より 10 年先行している。また、1999 年にオイラーズがヒューストンからナッシュヴィルへ移転した。旧 NFL の発祥地ともいうべきシカゴや AFL の発祥地ともいうべきヒューストンから移転するという冒険的な経営判断をしている。空白となったヒューストンに 2002 年に最後の新チームであるテキサソックスが本拠地を構えた。シカゴにはもう 1 つのベアーズが残ったが、チームを補完することはなかった。

NFL は 1970 年代以降に加盟した 6 チームを加えて、2002 年に両カンファレンスは 4 地区に再編成された。チームの移転も 1970 年代以降 4 例を数えた。一方、MLB は 1970 年代以降に新設が 4 チーム、移転が 3 チームであった。NFL の人気は MLB を上回って、国民的娯楽となっていく過程はこういった変化にも認められる。

V MLB と NFL とのスタジアムの共用

1. スタジアム共用の趨勢

MLB と NFL のレギュラーシーズンはそれぞれ春→秋と秋→春と逆転しているため、スタジアム（競技場）の共用が生じることがある。第4表には MLB と NFL のチームのスタジアムの共用期間と NFL の専用スタジアムの設置年を示している。第4表は NFL の側からスタジアムの共用を意図して作成したので、煩雑さを避けるために専用スタジアムの名称は示していないが、本文中にはできるだけ両方の専用スタジアム名を記すように努めた。

1950年代までは MLB が先行することが多かったために、野球場に関する先行研究が指摘するよりも、野球場を NFL のチームが共用する機会が多いことが知られる。それ以外の初期に設立されたチームはカレッジフットボールなどのスタジアムを共用していた。しかし、野球場は陸上競技やサッカーのような一般的なスクウェアな形態とは違って特殊である。NFL の試合はその特殊なスペースをスクウェアに切り取って使用していた。

1960年代に AFL が設立されるとプロフットボールのチームが急増して、都市によっては MLB チームより立地が先行する例が出てくる。1960年代の MLB チームの拡張と相まって、1960年代から円形の多目的スタジアムが登場する。さらに、1970年の NFL 統合によって収容力5万人以上という条件が多目的スタジアムの建設を加速した。MLB チームが予定されずに進出した場合は NFL のスタジアムを借用するという例もあった。

しかし、試合数の多い MLB の観客動員数は、第2表に示したように1970年に1試合平均で当時約14,000人であったが、多目的スタジアムの収容力は NFL の試合を標準にせざるをえなかった。野球場としては1階席を移動式にしたクッキーカッターといわれ、野球ファンから嫌われた。

1990年代になると、米国の好景気もあってか専用球場の建設ラッシュとなり、21世紀には多目的スタジアムはほとんどなくなった。野球ファンは7万人を超える過大な収容人員のスタジアムを小さく使用することを嫌い、円形の個性的でない多目的スタジアムから、試合の観戦だけではない、レンガや鉄骨の外観、天然芝、左右非対称のフィールド、急傾斜のスタンド、街の借景などの新古典主義のボールパークを志向した。映画「フィールド・オブ・ドリームズ」の中で、野球は視覚だけでなく、ボールがバットに当たる音やボールがミットに収まる音、球場の臭いまでも楽しむ臨場感が大切なスポーツと描かれている。

以上のような一般的な進化の傾向は地域別に異なっており、以下では中西部（五大湖岸とミシシッピ川流域に分ける）・北東部・西海岸・南部と地域別にスタジアムの共用状況について、それぞれの地域の共用の仕方について特徴づける。

第4表 NFL チームの MLB チームとのスタジアムの共用

所在大都市圏 () は中心市以外	NFL チーム ★: AFC	加盟 移転	MLB 球団	共用する MLB 球団	共用するスタジアム 太字は円形, 斜体字は馬蹄形	MLB との 共用期間	NFL 専用
シカゴ	ベアーズ	1920	●	カブス	リグレーフィールド	1921-70	1971
(ラシーン)	カージナルス	1920	●				
シカゴ		1922	●	ホワイトソックス	コムスキーパーク	1922-59※	
グリーンベイ	パッカーズ	1921	×				1925
ミルウォーキー		1933	○	ブレーブス ブルワーズ	カウンティスタジアム カウンティスタジアム	1953-65 1970-94	
ボートマス	ライオンズ	1930	●				
デトロイト		1934	●	タイガース	ブリックススタジアム	1935-74	
(ポンティアック)		1975					1975
デトロイト		2002					2002
クリーヴランド	ラムズ→	1937	●	インディアンズ	ミュニシパルスタジアム	1937-45※	
クリーヴランド	ブラウンズ★→ ブラウンズ★	1950 1999	●	インディアンズ	ミュニシパルスタジアム	1946-93	1999
バッファロー	ビルズ★	1960	×				
(オーチャードパーク)		1973					1973
ピッツバーグ	スティーラーズ★	1933	●	パイレーツ	フォーブスフィールド スリーリバーズスタジアム	1933-63 1970-99	2001
シンシナティ	ベンガルズ★	1968	●	レッズ	リバーフロントスタジアム	1970-99	2000
セントルイス	→カージナルス→	1960	●	カージナルス カージナルス	ブッシュスタジアム I ブッシュスタジアム II	1960-65 1966-87	
セントルイス	→ラムズ→	1995	●				1995
(ブルーミントン)	バイキングス	1961	◎	ツインズ ツインズ	メトロポリタンスタジアム メトロドーム	1961-81 1982-2009	2010
ミネアポリス							
カンサスシティ	→チーフス★	1963	○	アスレチックス ロイヤルズ	ミュニシパルスタジアム ミュニシパルスタジアム	1963-67 1969-71	1972
インディアナポリス	→コルツ★	1984	×				1984
ニューヨーク	ジャイアンツ	1925	●	ヤンキース	ヤンキーススタジアム	1956-73	1976
(イストラザフォード)		1976					2010
ニューヨーク	ジェッツ★	1960	○	メッツ	シェイスタジアム	1964-83	
(イストラザフォード)		1984					2010
ボストン	レッドスキズ→	1932	●	レッドソックス	フェンウェンパーク	1933-36	
ボストン	ペイトリオッツ★	1960	●	レッドソックス	フェンウェイパーク	1963-68	
(フォックスボロ)		1971					1971
フィラデルフィア	イーグルス	1933	●	フィリーズ	ベイカーボウル シャイブパーク ベテランズスタジアム	1933-35 1942-57 1971-2002	2003
ワシントン DC	→レッドスキズ	1937	●	セネターズ I セネターズ II	グリフィススタジアム DC スタジアム	1937-60 1962-71	1977 1997
(ランドーバン)		1997					
(ボルティモア)	→コルツ★→	1953	○	オリオールズ	メモリアルスタジアム	1954-83	
(ボルティモア)	→レイブズ★	1996	●				1998
ロサンゼルス	→ラムズ→	1946	○	ドジャーズ	メモリアルスタジアム	1958-61	1946
(アナハイム)	→ラムズ→	1980	●	エンゼルス	アナハイムスタジアム	1980-94	
ロサンゼルス	→ラムズ	2016					
ロサンゼルス	→レイダース★→	1982	○				
ロサンゼルス	チャージャーズ★→	1960	○				
(カーソン)	→チャージャーズ★	2017					
サンディエゴ	→チャージャーズ★→	1961	○	パドレス	サンディエゴスタジアム	1969-2003	1961
サンフランシスコ	フォーティナイナーズ	1950	○	ジャイアンツ	キャンドルスティックパーク	1971-99	
(サンタクララ)		2014					2014
(オークランド)	レイダース★→	1960	○	アスレチックス	アラメダカウンティコロシウム	1968-81	1966
(オークランド)	→レイダース★	1994		アスレチックス	アラメダカウンティコロシウム	1995-	
シアトル	シーホクス	1976	◎	マリナーズ	キングドーム	1977-99	2002
ダラス	テキサズ★→	1960	○				
ダラス	カウボーイズ	1960	○				
(アーヴィング)		1971					1971
(アーリントン)		2009					2009
ヒューストン	オイラーズ→	1960	○	アストロズ	アストロドーム	1968-96	
ヒューストン	テキサズ★	2002	●				2002

（続き）

デンヴァー (テンピ) (グレンデール)	ブロンコス★ →カージナルス	1960 1988 2006	○ ○	ロッキーズ	マイルハイスタジアム	1993-94	1960 2006
アトランタ	ファルコンズ	1966	●	ブレイブス	フルトンカウンティスタジアム	1966-91	1992
ニューオーリンズ	セインツ	1967	×				1967
マイアミ	ドルフィンズ★	1966	○	マーリンズ	ドルフィンズスタジアム	1993-2011	1966
タンパ	バッカニアーズ	1976	○				1976
ジャクソンヴィル	ジャガーズ★	1995	×				1995
シャーロット	パンサーズ	1995	×				1996
ナッシュビル	→タイトイズ★	1999	×				1999

資料：NFL 公式サイト (NFL.com)、MLB 公式サイト (MLB.com)、アメリカ合衆国センサスなど

注1) 現存のチームのみ列挙。チーム名は現在。→は移転に伴うチーム名変更を含む。

注2) 「共用期間」の※印は中断期間があることを示す（詳細は本文に）。

注3) 「MLB 球団」欄の●は NFL 加盟時に MLB チームが既設、◎は同年、○は NFL チームが先行、×は MLB チームが未設

注4) 「NFL 専用」欄は MLB チームとの共用前後の建設時期を含む。カレッジフットボールとの共用などは「専用」とする。

注5) チーム名の前後の→は移転を示す。オイラーズ→タイトイズ、テキサス→チーフス、ブラウンズ→レイブズはチーム名変更。

2. 五大湖沿岸

最も早い時期だと、やはりシカゴの MLB の 2 チームの球場を借用した例がある。NFL の パークスは 1970 年まで半世紀ものあいだ、カブスのリグレーフィールドを借用した。1970 年の NFL 統合により、スタジアムの収容能力は 5 万人以上とされたことを契機に、36,000 人余りのリグレーフィールドを使用できなくなり、ループ内に立地するソルジャーフィールドの収容力を拡張して⁵⁾、翌年から専用スタジアムとして使用した。また、もう 1 つのカージナルスはセントルイスに移転する 1959 年まで、ホワイトソックスのコミスキーパークを共用した。

デトロイトタイガースは 1912 年からネビンフィールド（1938 年ブリックススタジアム、1961 年タイガーススタジアムと改称）を使用した⁶⁾が、1935～74 年に NFL のライオンズが借用した。タイガーススタジアムは 52,000 人以上の収容力を持っていたが、冬になると天然芝が剥げて評判が悪かったので、1975 年にライオンズは郊外のポンティアックに収容力 80,000 人超のシルバードームを建設した。2000 年にタイガースがダウンタウンの再開発地区にコメリカパークを建設したことを契機に、2002 年に隣接地のフォードフィールドに移転した。

クリーヴランド・ミュニシパルスタジアムは MLB のインディアンズが 1932～93 年に使用してきた⁶⁾が、NFL のラムズがロサンゼルスに移転するまでの 1937～45 年（1938 年、1942～43 年をのぞく）に、ブラウンズが NFL 加盟前も含む 1946～95 年に使用してきた。「湖畔の失敗」といわれる市民の不評とともに、ダウンタウン再開発の一環⁷⁾として、1994 年にインディアンズの専用球場としてジェイコブズフィールド（のちプログレシヴフィールドと改称）が建設され、1996 年にブラウンズは 3 年間の活動停止ののち、1999 年に建設されたブラウンズスタジアムを本拠地とした。

NFL 最古のチームの 1 つであるパッカーズは 1925～56 年に事実上の専用スタジアムのシティスタジアムを使用した。最も古い本格的な専用スタジアムは 1957 年に開場したランボーフィールドではないかと思われる。1965 年にチームの創設者に因んでランボーフィールドと改称された。収容力は当時としては大きい 32,000 人余り⁸⁾であった。

一方、大恐慌の影響もあって、1933年からミシガン湖岸の約200km南に位置するミルウォーキーをもう1つの本拠地とした⁹⁾。1953年にMLBのブレーブスがボストンから移転してきたために、ミルウォーキーカウンティスタジアム¹⁰⁾が建設された。パッカーズもミルウォーキーではこの野球場を共用したが、1965年にブレーブスがアトランタへ移転した。1970年にシアトルからMLBのチームが移転してブルワーズと改称されると、再びカウンティスタジアムを共用することになる。ところが、例外的に多くの株主が広がったパッカーズは1995年に本拠地を再びグリーンベイだけに一本化した。

五大湖沿岸では1960年と唯一遅れて進出したバッファロービルズはAFL加盟時にウォームモリアル・スタジアムを使用した¹¹⁾が、1973年に郊外のオーチャードパークのリッチスタジアム(現ニューエラスタジアム)に移転させた。中心市以外に本拠地を移転した事例としてはボストンやダラスの大都市圏の次に古く、中心市の衰退を物語っている。五大湖沿岸のチームは共用のないバッファローを除いて、野球仕様のスタジアムを共用した。

3. 中西部のうちミシシッピ川本支流域

ピッツバーグパイレーツは1909年からフォーブスフィールドを使用した¹²⁾が、1933年～63年にNFLのステイラーズが借用している。ステイラーズは1958年からカレッジフットボールのピットスタジアムを併用し、1964～70年はピットスタジアムだけを使用した。1970年に市は円形の多目的スタジアムのスリーリバースタジアム¹³⁾を建設して、両チームが兼用した。スタジアムの老朽化と専用スタジアムブームで、2001年にステイラーズはハインツフィールド、パイレーツはPNCパークをそれぞれ建設した。

1968年にAFLに加盟したシンシナティベンガルズは当初2年間シンシナティ大学のニッパートスタジアムを借用したが、市は多目的スタジアムのリバーフロントスタジアム(1996年に命名権取引でシナジーフィールドと改称)を建設して、ベンガルズとMLBのレッズ¹⁴⁾が共用した。2000年にハミルトン郡が建設したポール・ブラウンスタジアムにベンガルズが移転し、2003年にレッズは市が建設した隣接するグレートアメリカン・ボールパークに移転した。

1960年にセントルイスカージナルスと同名のNFLのチームがシカゴから移転し、1966年春までブッシュスタジアム¹⁵⁾を借用した。ブッシュスタジアムの収容力は当時3万人弱だったが、1966年に円形で兼用の新ブッシュスタジアムが建設されて、収容力は50,000人弱となった。1988年にカージナルスがフェニックス郊外に移転してブッシュスタジアムは野球専用となった。なお、1995～2015年にセントルイスに立地したラムズは市が建設したトランスワールドドーム(エドワード・ジョーンズドームと改名)を使用した¹⁶⁾。

ミネアポリスではMLBのツインズとNFLのバイキングスが1968年の同年に開設された。2チームは1956年に開場した郊外のブルーミントンのメトロポリタンスタジアムを共用した。収容人員は4万人であったが、統合NFLの5万人以上という条件を満たさず、特例として認められた。1982年にミネアポリスの再開発に関連する通称メトロドーム¹⁷⁾を建設し、バイキングス

は2年間ミネソタ大学のTCFバンクスタジアムを使用したあと、メトロドームの跡地に建設したUSバンクスタジアムに本拠地を移した。

1955年にフィラデルフィアからカンザスシティにMLBのアスレチックスに移転すると、小規模だった球場¹⁶⁾を市は2階建ての35,000人余りの球場に改修して、ミュニシパルススタジアムと改称した。AFL加盟したダラステキサンスは1963年にカンザスシティに移転してチーフスと改称され、ミュニシパルススタジアムを本拠地とした。MLBのロイヤルズが1969年にチーム拡張されると、スタジアムを利用した。老朽化により多目的ドームの建設が予定されたが、実現しなかった。1972年にアローヘッドスタジアム、1973年にロイヤルズスタジアムが別々に建設された。

中西部のうち、ミシシッピ本支流の都市圏では最初は野球仕様のスタジアムを共用したが、ピッツバーグ・シンシナティ・セントルイス・ミネアポリスで多目的スタジアムが建設された。ミネアポリス以外は五大湖沿岸と同様に人口増加率が低く、都市圏人口で300万人を超えない点はシカゴ・デトロイト・クリーブランドとは異なる。

4. 北東部メガロポリス

ニューヨークにはMLBチームが現在2つ、かつて2つが立地し、NFLチームが2つ立地している。MLBとNFLの同名のジャイアンツの2チームが1925～55年にポログラウンズ¹⁷⁾を共用した。NFLのジャイアンツは1956～73年にヤンキースタジアム¹⁸⁾を共用したのち¹⁹⁾、1976年に専用のジャイアンツスタジアムを建設した。

ジェッツは加盟当初の4年間はポログラウンズを使用した²⁰⁾が、1964年に市がクィーンズ地区に建設したシェイスタジアム²⁰⁾に本拠地を移転し、1983年までMLBのメッツとスタジアムを共用した。シェイスタジアムは外野スタンドが少ない円弧状のクッキーカッターである。ジェッツは1984年にジャイアンツスタジアムに本拠地を移転し、ジャイアンツとスタジアムを共用した。2010年にNFLの2チームは郊外のイーストラザフォードのメドウランズスタジアムに本拠地を移転した。

NFLのフィラデルフィアイーグルスは1933～35年にベイカーボウルを、1942～57年にシャイブパークを共用した²¹⁾が、1958～70年はカレッジフットボールのフランクリンフィールドを使用した。シャイブパークの老朽化に伴い、1971年に円形に近いベテランズスタジアムが開場すると、MLBとNFLの両チームは2002年まで共用した。市は2003年にフットボール用のリンカーンフィナンシャルを、2004年に野球用のシティズンズバンクパークを建設した。

ワシントンDCのグリフィス・スタジアムは1911年に開場し、MLBの初代セネターズによって1961年まで使用された²²⁾が、NFLのレッドスキングスがボストンから移転した1937年から1960年まで借用した。セネターズがテキサスに移転して、1962年にDCスタジアム（1968年にロバート・F・ケネディ（RFK）メモリアルスタジアムと改称²³⁾）が建設されると、2代目セネターズが移転するまで、NFLのレッドスキングスは1962～71年に共用した。このスタジアムは円

形であり、最初から兼用として建設された。1997年にメリーランド州ランドーバンのジャック・ケント・クックスタジアム（当時のオーナー名、命名権を売ってフェデックスフィールドと改称）に移転した。

1950年にボルティモア市有のメモリアルスタジアム²⁴⁾が建設され、1953年からNFLのコルツが設立され、1954年にMLBのオリオールズが移転してくると、両チームはこのスタジアムを共用した。アメリカンフットボールに適した馬蹄形の31,000人という当時としては大規模なスタジアムであった。

1984年コルツがインディアナポリスに移転すると、オリオールズ専用となったが、市の財政難にもかかわらず1992年にオリオールパーク・アット・カムデンヤーズ（操車場跡地の名称）を建設した。ダウンタウンの再開発として新古典主義の先駆となる新球場を企画した。1996年にNFLのレイブンズがチーム拡張されると、当初メモリアルスタジアムを使用したのが、1998年に新たにM&Tバンクを建設した。

ボストンペイトリオッツは1963～68年にMLBのレッドソックスのフェンウェイパークを借用したが、フェンウェイパークが33,000人余りの収容力であったために1971年のボストン郊外のフォックスボロスタジアムに本拠地を移転した。2002年には老朽化のために隣接地にジレットスタジアムを建設した。

北東部のチームにも多目的スタジアムを建設したフィラデルフィアとワシントンDCの例がある。ニューヨーク市有のシェイスタジアムもそれに近い。フェンウェイパークや初代ヤンキースタジアムのように野球場を兼用した例もあるが、ボルティモア市有のメモリアルパークはプロフットボールチームが先行したために馬蹄形になった。

5. 西海岸

ロサンゼルスはNFLチームの移転が複雑であるが、プロフットボールの試合は基本的にオリンピックメモリアルスタジアム²⁵⁾が使用された。NFLのラムズが1946年にクリーヴランドから移転すると、メモリアルコロシウムを使用したのが、ドジャーズが1958年にロサンゼルスに移転して1962年にドジャーズスタジアムを建設するまでは、ドジャーズはオリンピックメモリアルコロシウムを野球仕様で共用した。ラムズがアナハイムに郊外の移転したあと、1984年にレイダースがオークランドから移転すると、やはりメモリアルスタジアムをオークランドに再移転する1994年まで使用した。

ラムズは1980年にアナハイムに移転すると、セントルイスに移転する1994年までアナハイムスタジアムをMLBのエンゼルスと共用した。アナハイムスタジアムは1966年にエンゼルス²⁶⁾が郊外のアナハイムに移転した際に市が建設した。

AFLのチャージャーズが1961年にサンディエゴに移転すると、馬蹄形のバルボアスタジアムを34,000人に収容力を拡張したが、市は1967年に多目的スタジアムとしてサンディエゴスタジアム（命名権売却によって1997～2017年までクアルコムスタジアムと改称）を建設した。1969

年には MLB の拡張チームのパドレスが本拠地を置くことになって、2003 年までスタジアムを共用した。2004 年にパドレスがダウンタウンのペトコパークに本拠地を移転して、スタジアムの共用を解消した。

なお、2016 年にラムズが再移転して、しばらく不在だった NFL チームがロサンゼルスに復活するが、メモリアルコロシウムを使用している。2017 年にチャージャーズもロサンゼルスに戻るが、メジャーリーグサッカーのギャラクシーの本拠地の郊外カーソンにあるスタブハブセンターを暫定的に借用することになった。スタブハブセンターは収容人員 30,000 人にすぎず、郊外のイングルウッドにロサンゼルススタジアム・アット・ハリウッドパーク（競馬場跡地）を建設している。

サンフランシスコのキーザースタジアムは 1925 年に開場し、1946～70 年にフォーティナイナーズとその前身のチームに使用されてきた。約 43,000 に人の収容力をもつキャンドルスティックパークは 1958 年の開場からニューヨークから移転してきた MLB のジャイアンツ²⁷⁾によって使用されてきたが、1971 年からはフォーティナイナーズも共用してきた。キーザースタジアムは 6 万人弱の収容力を持っていたが、フォーティナイナーズは翌 1972 年から収容力 6 万人以上に収容力を拡張して、十分な駐車場敷地を得られるキャンドルスティックパークを選択し、野球場の仕様をスクウェアに使用した。

ジャイアンツは 2000 年にパシフィックベルパーク（現在 AT&T パークと改称）に移転し、フォーティナイナーズも 2014 年にシリコンヴァレーのサンタクララのリーバイススタジアムへ移転した。

1962 年から本拠地を転々としたオークランドレイダースの本拠地として 1966 年にアラメダカウンティコロシウムが建設された。オークランドは MLB チームの誘致を目指していたため円形に近い多目的スタジアムとなった。MLB のアスレチックスが 1968 年に移転してから共用した。レイダースが 1984 年にロサンゼルスへ移転したあと、オークランドに戻ってくると再びアスレチックスとスタジアムを共用した。現在 MLB と NFL の兼用球場はこのスタジアムのみとなった。

1976 年の秋-春シーズンと 1977 年の春-秋シーズンにそれぞれ NFL のシーホークスと MLB のマリナーズは 1999 年までキングドームを共用した。しかし、マリナーズは 1999 年にその南隣に建設されたセーフコフィールドを本拠とし、シーホークスは 2002 年にキングドームの跡地に建設されたクエストフィールドを本拠地とした²⁸⁾。

6. 南部及び山岳地域

南部および山岳地域はプロフットボールチームが先行して立地したため、ほぼスタジアムの共用されない場合が多いが、ヒューストンとアトランタという進出の目安となる 2 つの大都市圏は野球とフットボールの兼用スタジアムが建設された。

ヒューストンのアストロズはコルト 45's と称した時期にはコルトスタジアムを使用したが、

1965年に夏場の高温多雨を考慮して世界最初のドーム球場アストロドームが隣接地に建設され、チーム名をこれに合わせて変更された。カレッジフットボールの本拠地のイエッペセンスタジアムやライススタジアムを使用してきたNFLのオイラーズも1968年から本拠地として共用したが、1997年にナッシュヴィルに移転した。2000年にハリス郡は新球場エンロンフィールド（現在はミニッツメイドパークと改称）を建設した。

MLBとNFLのチームが1968年の同年に設置されたミネアポリスと同様に、アトランタのチームは最初からスタジアムを共用している。アトランタ・フルトンカウンティスタジアムはドーム球場ではないが、多目的型の円形である。NFLのファルコンズは観客動員の増加に対応するために1992年にジョージアドームへ本拠地を移した。一方、ブレーブスも1996年のオリンピックスタジアムを野球場に改造することを計画し、1997年からターナーフィールドに本拠地を移した。さらに、ブレーブスは2017年に郊外のカンバーランドのセントラストパークに移転した。郊外化が最も著しい都市圏といわれる所以である。

1960年代に旧NFLまたはAFLに加盟したチームのうち、MLBのチームが立地していない都市は専用スタジアムを建設するか、既存のカレッジフットボールのスタジアムを使用することになる。うちデンヴァーとマイアミはずいぶん遅れてMLBチームが進出したために、フットボール用のスタジアムを野球場として借用した例であり、それ以外は共用がなかった例である。

AFLのプロンコスがデンヴァーに設立されると、野球場だったマイルハイスタジアム²⁹⁾をアメリカンフットボール用に馬蹄形に改造して収容人員も18,000人から34,000余りに拡張した。AFLのNFLへの統合が合意された1968年に5万人を超える収容人員に拡張された。1993年にMLBのロッキーズがデンヴァーにチーム拡張されると、最初の2シーズンだけ共用したが、ダウンタウンに野球専用のクアーズフィールドが建設された。

マイアミドルフィンズはAFLに加盟した1960年からカレッジフットボールの強豪マイアミ大学のマイアミオレンジボールを使用した。1987年からドルフィンズスタジアム（サンライフ・スタジアムなど何度も改称した）に本拠地を移転し、1993～2011年にMLBのマーリンズが共用したが、2012年にマーリンズパークを専用球場として開場した。

2015年にフォーブスが世界のプロスポーツの中で最も資産価値が高いと評価したダラスカウボーイズは、1930年に建設された最も伝統のあるカレッジフットボールのスタジアムであるコットンボールを使用した。1971年に郊外のアーヴィングに専用スタジアムを建設して移転した。さらに2009年にアーリントン³⁰⁾のAT&Tスタジアムに移転した。

ニューオーリンズセインツは1967年の旧NFL加盟からテューレン大学のスタジアムを使用した。1975年に建設された多目的ドームのメルセデスベンツ・スーパードームを使用している。タンパベイバッカニアーズはカレッジフットボールのスタジアムであったタンパスタジアムの収容人員を1975年に拡張して使用した。さらに1998年にレイモンド・ジェームズスタジアムに本拠地を移転した。

1988年にカーディナルスがセントルイスからフェニックス都市圏に移転した際には、郊外のテ

ンピに立地するアリゾナ州立大学のサンデビルスタジアムを本拠地とした。2006年にアリゾナ州のスポーツ運営の外郭団体がグレンデールに建設したカーディナルスタジアム³¹⁾に本拠地を移転した。

好景気の1990年代にチーム拡張された2チームもいずれも最初からスタジアムを建設している。シャーロットパンサーズは1995年にカレッジフットボールの本拠地を借用したが、1996年に建設されたエリクソンスタジアムを使用した。ジャクソンヴィルジャガーズは1995年にエバーバンクフィールドを建設した。中西部のインディアナポリスはコルツが1984年にボルティモアから移転した時、多目的ドームのフーリヤドーム（現在はRCAドームと改称）が建設された。2008年にルーカス・オイル・スタジアムに移転した。

オイラーズは1997年にヒューストンからナッシュヴィルに本拠地を移転したにもかかわらず、ナッシュヴィルのスタジアムを使用できず、メンフィスのリヴァティボウルメモリアルスタジアムを1年間使用した。ナッシュヴィルのヴァンタービルトスタジアムを1年間使用したあと、1999年に都市圏政府はアデルフィアコロシウム（現在はニッサンスタジアムと改称）を建設した。チームの愛称もテネシータイタンズと改称した。

VI 結びに代えて

本稿はプロスポーツチームの本拠地の立地条件として市場空間がどれほど影響するか、すなわち都市圏人口を基準にした成立閾という考え方が妥当かという問題を設定した。都市圏人口は直接的なスタジアムへの入場者数だけでなく、テレビ観戦をするファンの市場空間規模との相関性が想定される。旧NFLも入場料収入に依存してメジャースポーツになっていった時代にはMLBチームと同様に都市圏人口が重要な立地条件であった。

MLBより後発のNFLも中西部を発祥地とし、やがて北東部の大都市に展開したため、1950年代までに中西部や北東部の主要都市圏に立地した。旧NFLのライバルとして登場したAFLがサンベルトの主要都市圏を発祥地としたために、南部の主要都市圏への進出をいち早く果たし、南部に低密度なMLBとは違った現在のチーム分布を形成した。

しかし、プロフットボールのように早い時期からテレビ放映権をリーグが一括契約をしてその収益を各チームに分配するシステムを構築した場合は市場空間規模の影響力は小さくなる。チームの立地過程を詳細にみていくことは、MLBの場合は成立閾が一定ではなく、時代によって変化することを確認することになったが、プロフットボールの場合は市場空間という立地条件は有効かと問わねばならなくなる。

MLBも1990年代から一部収益分配制度を導入したが、それによってチーム経営が安定し、地域市場間の競争やチームの拡張を嫌うことになった。1988年までチーム数が増加しても、都市圏人口の上位から立地していたが、2010年には最小の人口を持つ都市圏よりも大きい都市圏に立地しないという現象がみられるのは、1997年からMLBが収益分配制度を一部導入した（岡

田：98-110) ことに起因するという仮説を立てることができる。

そもそもプロスポーツリーグはチーム力の拮抗を目標にリーグでドラフト制度を導入したことは自由競争ではないことを示しているが、チーム経営への直接的なリーグの関与である収益分配制度は自由主義経済ではないことが前提である。1910年代にすでに野球の新リーグの参入をめぐって MLB は反トラスト法の疑義があったが、1922年の最高裁は「野球は独特な企業」という理由で異議申し立てを退けた(鈴木武樹 1971: 82-88)。

また、公的セクターによるスポーツ施設への投資について本稿は都市間の関係を主たる関心としたため、都市内部構造との関連性については十分でなかった。第1表と第3表を通覧して比較しただけでも、郊外からミネアポリス市内への移転とデトロイトへの都心回帰などという例外を除いて、NFLのチームはMLBに比べて郊外移転した例が少なくない。NFLのチームが郊外市場に積極的に展開したことが知られる。

再開発の一環として公的セクターによる多目的スタジアムの建設は1960年代から1980年代初頭にかけて集中している。多目的スタジアムについては先行研究(杉本 1992, 宇佐見 2000)でも考察されているが、1990年代以降の専用スタジアムについては、市や郡などの自治体のみならず、都市圏政府や外郭団体が設置者(所有者)となっている場合が少なくなく、今後検討すべき重要な課題である。

多目的スタジアムから MLB と NFL のそれぞれの専用スタジアムの建設に至った例のうち、MLB が最初に専用スタジアムを建設して、共用を解消した場合はほとんどであることは、MLB チームが多目的スタジアムを嫌ったことを示している。

注

- 1) 成田 (1987) は 1950 年から 1980 年まで都市圏人口のランキングを示している。
- 2) 第 2 表から 1960 年代の観客動員数はナショナルリーグがアメリカンリーグを大きく上回っていたことが知られる。当時観客動員数で上位を占めたのは、メッツ、ドジャーズ、カブス、カーディナルスというナショナルリーグのチームである。1920 年代から 1930 年代にかけて人気を博したアンリカンリーグのヤンキースは 1960 年代にから 1970 年代にかけて成績・人気ともに低迷していた。
- 3) ESPN.com News service, MLB completes new TV deals, 2012 年 10 月 3 日
- 4) TNT はアトランタに本社を置く Turner Network Television の略称。メディア業界の大物テッド・ターナーが設立した TBS が運営する衛星放送及びケーブルテレビのチャンネル。現在は NFL の試合を放送していない。
- 5) 1924 年に開場した NFL で最も古いスタジアムであったが、当時は 7 万人弱の収容であった。2003 年の改修で現在では NFL で最小の 61,500 人収容となっている。
- 6) 1932~46 年にはその前の本拠地であったリーグパークを併用した。
- 7) 再開発地区に隣接して NBA のキャバリアーズのガンドアリーナが建設された。
- 8) 2017 年現在も、収容力 81,400 人余りと 5 番目に大きいスタジアムである。
- 9) ウィスコンシン州フェアパークなどが使用された。
- 10) 最初はマイナーリーグのチームであったミルウォーキーブルワーズのために建設されたが、メジャーリーグチームのブレーブスが移転することになった。
- 11) スリーリバーズとはアレギニー川とモノンガヒラ川が合流してオハイオ川となる地点である。

- 12) レッズは1912～70年の長期間クロスリーフフィールドを使用した。取容人員約3万人にすぎなかった。
- 13) ナショナルリーグのカーディナルスが立地したセントルイスに、アメリカンリーグのブラウンズが設立されて、1902年に新球場のスポーツマンパークを建設した。別の球場を使用していたカーディナルスも1920年から鉄筋コンクリートに改修されたスポーツマンパークを借用した。1953年にブラウンズがボルティモアに移転（チームの愛称をオリオールズと改称）して、所有権がカーディナルスに移り、ブッシュスタジアムと改称された。
- 14) 1995年の開幕まで間に合わず4日間だけブッシュスタジアムを間借りした。
- 15) 元市長（副大統領名も務めた）名を冠したヒューバート・H・ハンフリー・メトロドームは他のドーム球場と違って、円形ではなく楕円形である。
- 16) マイナーリーグのチーム名を冠してブルーススタジアムと呼ばれた。
- 17) ジャイアンツは1891年にブラザーズフットパーク（3代目）をボログラウンズと改称して移転前の1957年まで使用した。なお、ブルックリンのドジャーズの前身は1884～1912年にワシントンパークなどを本拠地としたが、1913年にエベッツフィールドを専用球場として建設し、1957年のロサンゼルス移転まで使用した。
- 18) ヤンキースの前身はヒルトップパークを本拠地としていたが、1913年にボログラウンズに移転した。ところが、ペーブブルース人気でヤンキーススタジアムを建設して、本拠地を移転した。2009年には2代目のヤンキーススタジアムを隣接地に建設した。
- 19) 1973～74年のシーズンはイェール大学のイェールスタジアムを借用し1975年にシェイスタジアムを共用した。
- 20) メッツは加盟当初はボログラウンズを使用した。1964年に市営のシェイスタジアムを本拠地とした。ヤンキーススタジアム改修中の1974～75年にはヤンキースがシェイスタジアムを一時的に使用した。2009年からは新球場のシティフィールドに移転した。
- 21) フィラデルフィア・フィリーズは1887～1938年にベイカーボウルを使用し、アスレチックスは1909年の開場からシャイブパークを使用した。1938～54年まではシャイブパークを共用した。1954年のアスレチックスの移転後はフィリーズが使用した。
- 22) 初代セネターズが1960年に移転し、2代セネターズが閉場の1年だけ使用した。
- 23) RFK スタジアムは2005年にモンリオールから移転してきたナショナルズが使用したが、2008年にナショナルズパークが建設された。
- 24) スタジアム名は第2次大戦後の戦没者の名誉を称えるものであるが、ボルティモア出身の偉大な選手の名前にちなんでパイプ・ルース・スタジアムと呼ばれることもあった。
- 25) 1932年に建設されたオリムピック・メモリアル・コロシウムを本拠地として使用したものであり、カレッジフットボールの名門の南カリフォルニア大学も本拠地としている。
- 26) 1961年にMLBのエンゼルスがチーム拡張されると、1962～65年にドジャーズスタジアムを借用した。
- 27) この球場でフォーティナイナイズは1980年代に5回と1994年のスーパーボウルの優勝を成し遂げてきたが、ジャイアンツは1987年の地区優勝まで30年近く弱小チームで、1989年にリーグ優勝、移転後の2010年によくワールドシリーズの優勝を逃げる。
- 28) ワシントン大学のハスキースタジアムを2001-02年のシーズンに使用した。
- 29) 1948年のマイナーリーグのデンヴァーベアーズのために建設された。
- 30) MLBのテキサスレンジャーズのボールパーク・イン・アーリントンがあるが、その前の1972～93年に使用されたアーリントンスタジアムの跡地はその駐車場の一部となった。
- 31) フェニックス大学が命名権を得てフェニックス大学スタジアムと改称したが、フェニックス大学は通信制なので本拠地ではない。

文献

池井 優(1977).『大リーグへの招待』, 平凡社カラー新書.

- 宇佐見陽(2001).『大リーグと都市の物語』平凡社新書.
大坪正則(2002).『メジャー野球の経営学』, 集英社新書.
岡田 功(2010).『メジャーリーグなぜ「儲かる」』, 集英社新書.
合衆国商務省編(1986).『アメリカ歴史統計・第I巻』, 原書房.
杉本尚次(1990).『ベースボールシティ』, 福武書店.
杉本尚次(1992).『スタジアムは燃えている』, NHK ブックス.
鈴木惣太郎(1978).『アメリカ野球史話』, ベースボールマガジン社.
鈴木武樹(1971).『アメリカ・プロ野球史—スポーツビジネスの夢と現実—』, 三一書房.
成田孝三(1987).『大都市衰退地区の再生』, 大明堂.
NFL.com History : Chronology of professional football <http://static.nfl.com/static/content/public/image/history/pdfs/History/2013/353-372-Chronology.pdf>
ESPN による MLB のデータベース <http://espn.go.com/mlb/attendance>
ESPN による NFL のデータベース <http://espn.go.com/nfl/attendance>

The Location Factors of Professional Sports Teams among Metropolitan Areas in the United States of America : with a Focus on NFL as Compared with MLB

MATSUDA Takanori*

The purpose of this paper is to think about the size of market space (threshold population) on which a professional sports team is located in the metropolitan area in the USA. The change of the attendance of MLB teams indicates its change of threshold population in addition to the locational process of MLB teams which was in previous studies. To understand the locational process of NFL teams found the effect of revenue-sharing to the location of teams. Revenue-sharing system stabilizes the management of NFL teams, and does not expand the size of market space to avoid competition for locations of teams. Secondly, to analyze the share of stadium between NFL and MLB teams revealed the effect of agglomeration of two kinds of professional sports teams. After NFL teams borrowed baseball stadium in the earlier days and many multi-purpose stadiums was built in 1960s through 1970s, most of MLB and NFL teams have used separately a dedicated stadium since 1990s.

Key words : metropolitan area, threshold population, locational process, National Football League, revenue-sharing system, share of stadium, United States of America

*Faculty of education, Shiga University E-mail : matsuda@edu.shiga-u.ac.jp